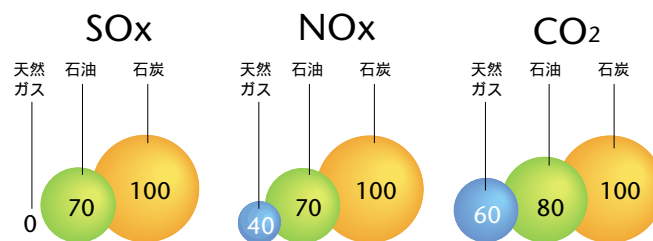


環境への取組み

1997年12月に行われた地球温暖化防止京都会議において、先進国の温室効果ガス削減目標が設定され、日本政府は2008年から2012年までに対1990年比で6%削減することを公約しました。天然ガスは他の化石燃料に比べてクリーンなエネルギーであり、この削減目標の達成に寄与できると期待されています。東京ガスは、2000年6月に新しい環境方針を策定し、お客様のエネルギー利用や当社の事業活動における環境負荷の低減を継続的に図っていきます。また、2000年7月には初めて環境会計実績を公表致しました。

天然ガス固有の強み

天然ガスは環境負荷が小さいクリーンエネルギーです。特に石油・石炭と比較した場合、燃焼時において、地球温暖化の原因の一つである二酸化炭素の排出量や、酸性雨の原因となる窒素酸化物の排出量も少なく、硫黄酸化物については全く排出されません(右図参照)。このため、天然ガスは現在地球上に存在する化石燃料の中で最もクリーンなエネルギーであると言えます。



出典:「IEA(国際エネルギー機関) Natural gas prospects to 2010, 1986」

東京ガスグループ環境方針「2000年6月策定」

<理念>

東京ガスグループは、かけがえのない自然を大切に、資源・エネルギーの環境に調和した利用により、地域と地球の環境保全を積極的に推進し、社会の持続的発展に貢献する。

<方針>

1. お客様のエネルギー利用における環境負荷の低減
環境性に優れた天然ガスの利用促進と効率が高く環境負荷の小さな機器・システムの提供により、お客様のエネルギー利用における環境負荷の低減に積極的かつ継続的に取り組む。
2. 当社の事業活動における総合的な環境負荷の低減
循環型社会の形成に向けて、効率的・効果的な環境マネジメント活

動を展開し、事業活動における資源・エネルギーの使用原単位を継続的に低減するとともに、廃棄物等の発生抑制・再使用・再資源化とグリーン購入を積極的に推進し、環境負荷を総合的に低減させる。

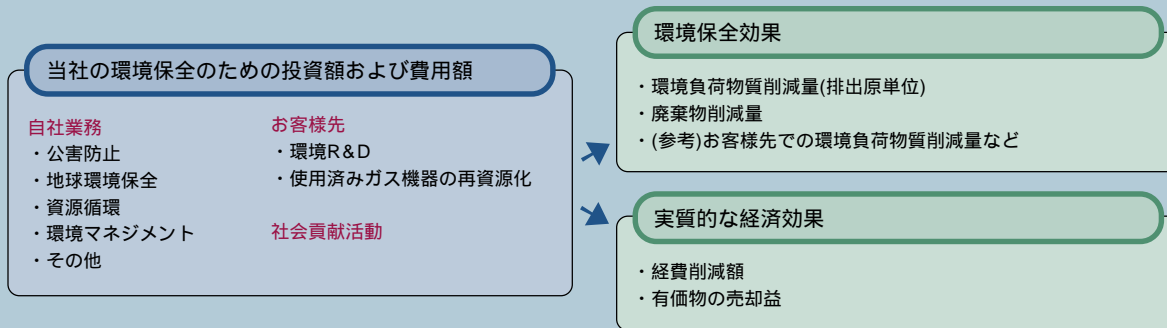
3. 地域や国際社会との環境パートナーシップの強化

地域の環境活動への参加から温暖化対策を始めとした国際環境技術協力に至る幅広い活動を通じて、地域や国際社会との環境パートナーシップを強化する。

4. 環境関連技術の研究と開発の推進

地域と地球の環境保全のため、新エネルギーを含む環境関連技術の研究と開発を積極的に推進する。

東京ガスにおける環境会計の概念図



東京ガスは、本年5月に策定した「都市ガス3社環境会計ガイドライン」に基づき2000年3月期の環境会計(東京ガス単体)を集計しました。環境保全のための投資額は約8億円、費用額は約37億円という結果でした。東京ガスの環境会計の特色としては、天然ガスへの転換が終了し、製造・供給など自社の事業活動上の環境負荷は極めて低いレベルとなっていること、当面の注力ポイントとして、お客様先での環境負荷低減に貢献すべく、マイクロコージェネレーションなど高効率ガス機器・システム等の研究開発を推進していること等があげられます。なお、集計結果の詳細は、「東京ガス環境報告書2000」に掲載されています。

ISO認証の取得

東京ガスは1997年に根岸、袖ヶ浦両LNG基地において環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001をガス事業者として初めて取得し、扇島LNG基地においても2000年1月に取得しました。また、2000年3月には新宿地域冷暖房センターが熱供給事業者として初めて認証を取得しました。

リサイクル活動

東京ガスでは、リサイクル活動の推進とともに一般廃棄物の発生を抑制することにより、環境への負荷の軽減を図っています。当社ではガス機器、導管材料、その他の産業廃棄物を効率的に回収、リサイクル、適正処理するシステムであるSRIMS (Saving Recycling Innovative Model System)を採用しています。また、導管敷設時に発生する掘削残土の抑制も推進しています。

環境保全のための技術開発

東京ガスではお客様のエネルギー利用における環境負荷の低減を重要な課題の1つととらえ、ガスコージェネレーションシステムをはじめとするエネルギー利用効率向上を目指した技術開発を推進しています。燃料電池は、高い発電効率と省エネルギー性を有し、環境汚染物質をほとんど排出しない、優れたオンサイト発電システムです。将来的には家庭用のコージェネレーションシステムとしても期待されています。また、ダイオキシン発生を抑える東京ガスのリバーニング技術は公営のゴミ焼却炉で活用されています。

環境負荷の小さい天然ガス自動車の開発は、東京ガスの環境保全活動の中で重要な位置付けとなっています。政府は2010年までに天然ガス自動車の百万台普及を目標としています。さらに、メタンハイドレートのような環境負荷の小さい新しい原料の開発も今後推進していきます。



環境エネルギー館「ワンダーシップ」
環境とエネルギー問題に関して正しい理解を深めていただく場として98年11月に開館しました。
2000年3月期来館者数約10万人。